

神川町

～健康づくり推進事業～

(1) 神川町の概要

(ア) 神川町の基本情報

本町は、埼玉県の北西部に位置し、東京駅から北西 85 km の距離にある。地勢は南部は山間部、北上するにつれ神流川右岸の平坦地となっている。また、この地域は県立上武自然公園に指定されており、その区域はおおよそ 3 分の 2 にあたる。農業生産は複合型経営で、野菜、米、畜産のほか特産として梨、花卉がある。また、観葉植物、麦、大豆なども栽培されている。

本町の人口は、昭和 50 年以降増加し続けてきたが、平成 12 年の 15,197 人をピークに減少傾向にある。人口減の要因としては、死亡が出生を上回っていること、町外からの転入人口が減っていることなどが考えられる。また、高齢者の比率は昭和 50 年と平成 17 年で比較すると 10% から 20.1% と 2 倍以上増加し、年少人口（0～14 歳）は、23.6%～15% に減少し、この 30 年間で少子高齢化が著しく進んだことがわかる。

近年では、若者の定住を促進しながら企業誘致と地元企業の育成により、農工一体による経済発展をめざしている。

① 面積	47.42 km ²
② 人口	14,560 人
③ ②のうち65歳以上人口（再掲）	3,184 人
※【 】内は高齢化率	【 21.9% 】

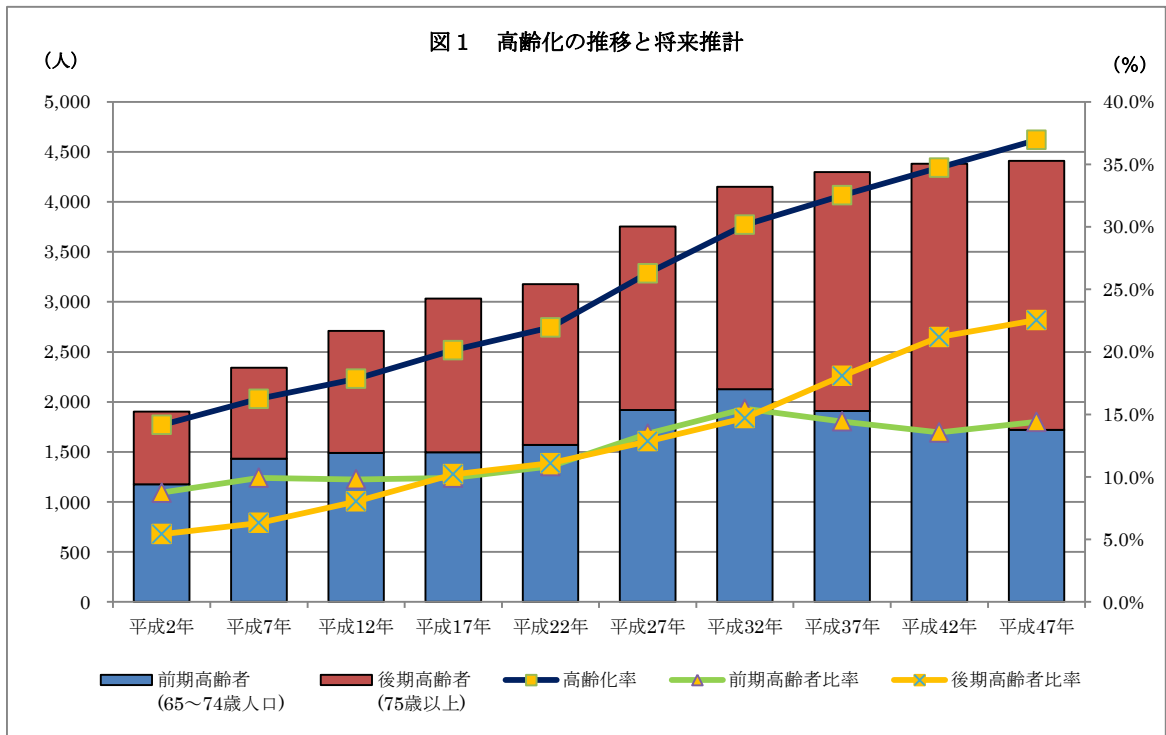
（平成 24 年 1 月 1 日現在。町（丁）字別人口調査）

(イ) 人口分布概要と見込み

神川町の高齢化率は、県平均と比較して高く、今後も急速に高齢化が進展すると予想されている。

表1 高齢化の推移と将来推計人口

年	国勢調査人口					将来推計人口					(人)
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	
総人口	13,443	14,414	15,197	15,062	14,470	14,274	13,764	13,216	12,616	11,936	
前期高齢者 (65～74歳人口)	1,175	1,431	1,490	1,496	1,570	1,919	2,127	1,908	1,710	1,719	
後期高齢者 (75歳以上)	728	910	1,221	1,537	1,606	1,833	2,024	2,389	2,672	2,691	
高齢化率	14.2%	16.2%	17.8%	20.1%	21.9%	26.3%	30.2%	32.5%	34.7%	36.9%	
前期高齢者比率	8.7%	9.9%	9.8%	9.9%	10.9%	13.4%	15.5%	14.4%	13.6%	14.4%	
後期高齢者比率	5.4%	6.3%	8.0%	10.2%	11.1%	12.8%	14.7%	18.1%	21.2%	22.5%	
平成22年までは、国勢調査人口											
平成27年以降は、『日本の市区町村別将来推計人口』（平成20年12月推計）(H17国勢調査から推計)											



(2) 神川町の取組 1) 地域健康づくり出前講座

(ア) 取組の概要

町では、平成20年6月に制定した神川町健康増進計画「かみかわ ちょっくら健康21」に基づき各ライフステージに応じた健康増進事業に取り組んでいる。

しかしながら、標準化死亡比（埼玉県を100とした値）をみると脳血管疾患や心疾患、悪性新生物は県内他市町村と比較して高い数値を示し、食生活改善や運動習慣を始め、町民の疾病予防及び健康づくり事業が喫緊の課題となっている。

このような状況の中、毎年行っている「がん検診」や「健康づくり事業」に加えて、地域に出向いて健康づくりの啓発を行う必要がある、「地域健康づくり出前講座」がスタートした。この事業は、個人や家族そして地域の皆さんが「健康」の正しい知識や大切さを身につけ、一生元気で明るい生活を過ごしていただくことを目指し実施している。

(イ) 取組の契機

① 地域別講座（地域健康づくり出前講座）の必要性

町は23の行政区に分かれますが、高齢化率は山間部や神流川に沿った地域が特に高く、また、疾病構造やがん検診受診率も地域により大きな差があり、その地域にあった「健康づくり」の啓発や事業を行う必要があります。

(ウ) 取組の内容

行政区や各種団体の要請により、月曜から金曜までの午前9時から午後9時までの約1時間、町の保健師が地域に出向いて「健康づくり」講座を行う。取り上げるテーマは行政区長や各団体の代表者と話し合いで決めている。

また、食生活改善推進員の皆さんが、減塩の工夫を凝らした料理の試食を提供する

など、実践でも役立つ事業を進めている。

平成 23 年度開催実績

地区	参加人員	内 容
新里	40 人	神川町で一番多い病気、それって何？
池田	16 人	〃
元阿保	32 人	〃

(エ) 取組の効果

① 事業の定着化

平成 22 年度より事業を開始したが、毎年 3～5 行政区において講座が開催されており、勉強になると好評を得ている。最近では「健康面」のみならず、救急救命方法や AED 使用方法について、行政区が自主研修を開くなど「健康」や「医療」に興味を持つ方が増えている。特定健診やがん検診の受診率もわずかながら増加傾向にある。

(オ) 成功の要因、創意工夫した点

① 参加者がリピーターとなり口伝えに健康の輪がひろがったこと

受講参加者が健康講座の内容を家族や知人に伝え、また、行政区に配置された食生活改善推進員は徐々に対象者を広げ、健康の大切さやそのために何をなすべきかを自分の問題として捉え行動に移すきっかけとなった。

(カ) 課題、今後の取組

① 効果を出すためには末永い活動が必要

本人の健康意識の変化や医療費削減効果は一朝一夕には出ない。このため、3 年、5 年、10 年といったスパンで事業の PDCA を繰り返し行う必要がある。

② 行政主導から町民主導へ

健康は一人ひとりの意識や心構え、行動に帰すところが大きく、真に充実した「健康増進事業」を推進するには、町民が自主的に継続して事業を行い、行政はそれを支援する形が望ましいものと思われる。

(3) 神川町の取組 2) 健康ポイントカード事業

(ア) 取組の概要

本町の死亡原因の第 1 位は、「がん」で、4 人に一人が「がん」で亡くなっています。特に 45 歳からの働き盛りで急激に増え始め、本人や家族に大きな負担と影響を与えている。

このような状況の中、「がん検診」をできるだけ多くの人に受診していただき、「がん」の早期発見、早期治療に繋げることが重要となっている。町民を「がん」から守るため（受診率向上）を目的に本事業は始まった。

(イ) 取組の契機

① 受診率の低迷

町の「がん検診」受診率は「結核・肺がん検診」は約 30%だが、その他の「がん検診」は 10%台で推移しており、この数値は県内では上位にあるものの、国の目標値「50%」とは大きく離れている。

(ウ) 取組の内容

「がん検診」を受診した時に、賞品をもらうことでお得感を得てもらい、受診のきっかけとなるよう、下記の事業を実施した。

各種がん検診を 1 回受診するごとに 1 ポイントたまり、男性 3 ポイント、女性は 5 ポイントで賞品がもらえる。

男性：「結核・肺がん」「胃がん」「大腸がん」「歯科」から 3 つの検診

女性：上記プラス「乳がん」「子宮頸がん」「骨粗しょう症」から 5 つの検診

平成 23 年度ポイント達成者実績

賞品名	男性	女性	計
「冬桜の宿」神泉利用割引券	19 人	6 人	25 人
農産物加工センター特産品	92 人	89 人	181 人
歯ブラシセット	45 人	49 人	94 人
計	156 人	144 人	300 人

平成 24 年度予算：200,000 円計上

(エ) 取組の効果

① 受診率の向上

平成 23 年度より事業を開始したが、平成 24 年度 9 月現在で、昨年より受診率が幾分伸びている。健康ポイントカード事業の実施により、賞品がもらえる楽しみと自分の健康チェックにも役立つ。また、賞品をもらった人がリピーターとなり、ひいては多くの方が「がん検診」を受診するきっかけになった。

(オ) 成功の要因、創意工夫した点

① 観光事業推進、経済活性化にも一役かう

賞品を「冬桜の宿神泉」の利用割引券及び特産品にしたことは、観光事業の推進や特産品の PR に繋がった。

(カ) 課題、今後の取組

① 効果を出すためには末永い活動が必要

「がん検診」の受診率向上には本人の意識が大切である。色々な角度から様々な事業を根気強く展開していくことが重要である。

(2) 神川町の取組 3) 健診前教室

(ア) 取組の概要

神川町国保加入者は、神川町人口の約30%である。

平成20年度から始まった、特定健診・特定保健指導の受診率は下記のとおりである。「健診前の健康意識が高まる時期に、健康教室を実施すると効果が高まる」という古井祐司氏の報告を参考に、住民の健康意識を高め、各健診受診の契機となることを目標に健診前教室を計画した。

		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (途中)	24年度 目標
特定 健診	対象者 (人)	3054	3005	3087	3062		
	受診者 (人)	744	813	838	756	818	
	受診率 (%)	24.4	27.1	27.1	24.7		65
保健 指導	対象者 (人)	139	152	134	121	133	
	指導者 (人)	27	23	41	42		
	指導率 (%)	19.4	15.1	30.5	34.7		45

(イ) 取組の契機

① 特定保健指導（集団教室）の参加人数が少数

神川町国保加入者の特定保健指導対象者に対して、6か月間開催している「チャレンジ教室（生活習慣病の講話：30分、体操：60分）」の参加者は、1回の教室当たり5名程度である。参加人数の少なさは、参加者どおしの刺激も少なく、参加者の参加意欲も薄れていくようで懸念を感じていた。

② 保健センター（衛生部門）で行うウォーキング教室は盛況

毎年、秋から始まるウォーキング教室の参加者は、20人定員のところすぐに定員となる盛況であり、なおかつ、新規申込者が増え、住民の健康教室への関心は高いことは伺っていた。

(ウ) 取組の内容

① 年度初めの「今年度の健診申込み」の機会の活用

神川町では毎年、年度初めに、保健センター・包括支援センター・国民健康保険の3係で、各がん検診・特定健診の申込み書類と、生活機能チェックリストを同一の封筒に入れ、返信を共同でとっている。住民にとって、健康（健診）に関する書類が

分散して届くよりも、まとめて届いた方が分かりやすいと検討した結果である。健康管理について、住民の関心が高まるこの時期に、毎戸配布される封筒に教室案内ちらしを同封し、参加を募った。

② 教室内容（別紙ちらし参照）

（エ）取組の効果

① 教室参加者の増加

これまで、健康教室の申込みは10名程度で、食生活改善推進員や愛育会の役員に声をかけて20名集まるような現状であった。

今回は、38人の申し込みがあり、30人の定員を上回る結果となった。

② 特定健診受診人数の増加

24年度の特定健診（集団健診）の受診者は、昨年度と比較すると、62人の増加となった。

③ 住民の健康意識の向上

健診前教室の参加者を分析すると、保健センターや包括支援センターですでに行われている健康教室等には参加していない方の参加もみられた。

（オ）成功の要因、創意工夫した点

① 教室のネーミング

各5回の教室内容のネーミングを何度も検討した。特に運動教室の内容においては、「そうそう！こういう体操やってみたかった！」「参加してみたい！」「それなら、私にもできそう！」と、ちらしを見て参加意欲が高まるように工夫した。

実施後のアンケートを分析したところ、申し込みの理由は「内容から選んだ」という方が20%を占めた。

② 実施時期「春」

「春」という時期は、行政側にとっては異動時期で、担当者が変わる恐れもあり、実施し難い時期である。しかし、一般住民にとって「春」は、「何か始めたい時期」である。また、神川町においては、特定健診（集団）は6月から開始するため、「健診前までに体重を減らしたい」と思っている方も多い。さらに、健診未受診者の中には「健診結果が悪いから、受けたくない」という声も多くきく。以上のようなことを踏まえて、「まだ間に合う～健診に向けて傾向と対策～」と称し開催に至った。

③ 対象者の拡大

今回、国民健康保険・保健センター・包括支援センターの3係で共同して郵送した書類のため、教室の対象は加入保険に関係なく、神川町住民とした。

④ 申込み方法の工夫

今年度の健診申込は、各世帯に返信用封筒が入っているため、健診前教室の申込みも、同封できるようにチラシを工夫した。「役場に電話はかけずらい」「電話はドキドキしてしまう」気持ちにも配慮し、申込みしやすい方法を増やした。

⑤ 特定健診受診の勧誘

健診前教室に参加して下さった人で、特定健診に申込みがされてない方には受診勧奨をおこなった。さらに、健診会場では、声をかけることを心がけ、次回の教室や健診にも参加しやすい気持ちになるように配慮した。

(カ) 課題、今後の取組

① ネーミングの大切さ

住民の方が「参加してみたい！」と思ってる講座の紹介が大切であることを知った。これからも、多くの方に参加してもらえるように常時、気にしていきたいと感じた。

② 特定健診受診者の伸び悩み

「年に一度の健診」が習慣づくように、機会あるごとに呼びかけを行い、受診率の向上、健康管理のお手伝いが引き続きできるよう努めていきたい。